

7 公共施設の色彩ガイドライン

7 公共施設の色彩ガイドライン

01 公共施設の役割

区では、公共施設による景観形成の指針として「公共施設景観形成ガイドライン」の策定を予定しています。そのため、ここでは、公共施設の色彩についての基本的な考え方を示すこととします。

景観の基盤を創る公共施設の色彩

道路や河川、公共建築物など、公共施設は規模が大きく、かつ長期間にわたって存在します。また、多くの区民が日常的に接し、来訪者にとっては地域の第一印象に影響を与える要素になります。こうしたことから公共施設の色彩は、地域の景観の基盤を整える役割を担っているといえます。

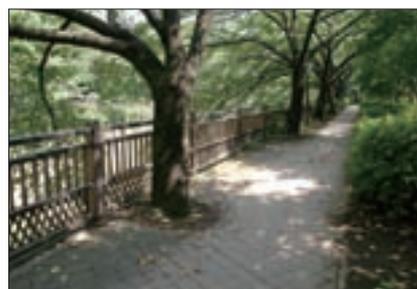
関係機関の連携と調整

公共事業には、関係部課をはじめ、国や都など、様々な機関が関わりをもちます。また、民間との連携が必要となる場合も少なくありません。公共施設の色彩選定にあたっては、こうした様々な関係機関の連携や調整が不可欠です。

公共建築物と周辺の広場や街路の調整、道路整備における舗装材と柵やポール、歩道橋などの調整、河川整備における護岸と柵、遊歩道の調整など、多くの機関が情報を交換し、将来像を共有しながら整備を進めていくことにより、空間を構成する様々な要素が違和感なく一体化した、景観の基盤と呼ぶにふさわしい質の高い公共施設を整備することができます。

際だつ色彩からなじむ色彩へ

公共施設は建築物や橋梁のように同じ場所にあり続けるものや、道路や河川のように継続的に整備・改修が繰り返されるものなど、時間的にも空間的にも地域の景観に大きな影響を与えます。こうした公共施設の特徴をふまえると、その色彩は周辺の景観から際だたせることよりもむしろ、地域の歴史や自然、既存の街並みなど、その場に蓄積されてきた景観になじませ、景観の「地」として、場の雰囲気を整えるべきものであるということが出来ます。



■フェンスの色彩を落ち着いた色彩に修正した CG シミュレーション（他都市）

■石神井川の緑になじむ落ち着いた色彩の公共施設

▶▶▶ 参考となる色彩

国土交通省では、防護柵（ガードレール）について、景観になじみやすい指定色を定めています。

これらの指定色は、土や砂の色彩と共通性があり、建築物等に慣用されている 10YR の色相を基本としています。

工作物の色彩を計画する際の参考にしてください。

色彩	色名	マンセル記号
	ダークブラウン	10YR2.0/1.0 程度
	グレーベージュ	10YR6.0/1.0 程度
	ダークグレー	10YR3.0/0.2 程度

